

つなぐ



今から、20年前のこと シニア世代対象のフォーラムが 多く開催されていました

おやじの居場所はどこ？「お帰らないお父さん」おやしフォーラム開催される

11月23日（日）浦安市文化会館にて、「おやしフォーラム お帰らない！お父さん。」（主催：浦安市市民活動センター運営協議会・浦安市）が、講師にジャーナリストの石井信平先生をお招きして開催されました。



65歳以上の人口率が、8.6%（2003年11月末現在）と全国平均を大きく下回る浦安市。ところがこれから数年のうちに、急速に高齢化が進むことが予想されています。長年家庭の収入を支えたサラリーマンのお父さんの多くが定年を迎えます。会社に行かなくなったお父さんたちの行き場所は何处？

現在、市民活動、NPO、ボランティアなどが、そんなお父さんの活躍の場として注目されています。今回の「フォーラム」は、そんなお父さんたちのためのヒントになればと催されました。

1995年の阪神淡路大震災では、ボランティアの存在が大きくクローズアップされ、その後のNPO法成立もあいまって、市民活動への期待が大きくなりました。

この記事は、2003年12月発行の市民活動センターだよりNo.20に掲載されたもの。団塊世代が定年を迎えるにあたり、その後の暮らしに「ボランティア・市民活動」を取り入れていただくことを目的として行われました。この頃、同様の目的で講座やイベントが数多く開催され、「地域デビュー」、「セカンドライフ」といった言葉がチラシのキャッチコピーによく使われました。市内でも、シニア世代が主役となる団体の活躍が見られました。

そして 地域ではさまざまな活動が・・・

少子高齢化、共働き世帯の増加などにより、ライフスタイルも大きく変わり、それに伴い地域課題も多様に。自治会や老人会など地縁団体の活動、ゴミ拾い・美化活動に代表される奉仕型の活動が行われる一方で、地域課題解決に向け活動する市民活動団体も多く発足。福祉、子育て、環境といった分野だけではなく、女性活躍やLGBTQなど、これまでにはなかった課題に取り組む団体も立ち上げられ、多様な活動が繰り広げられました。

企業の社会貢献活動も活発になり、社員がボランティア活動に参加するなど、社会貢献活動も展開されるようになりました。利益を上げるだけではなく、地域へと目が向けられ、他方、市民活動団体も補助金、助成金頼みではなく自主事業収入を得るなど、安定的、継続的な活動が求められています。これまでとはっきり分かれていた両者の境目が薄れてきました。



今 市民活動は ますます多様に そして 関わり方もいろいろ まちには面白い活動がいっぱい！

地域課題がさらに細分化したことにより、実にさまざまな活動が広がっています。その思いや立場、関わり方も、いろいろ。たとえば生きづらさを抱える人に寄り添いたい、そんな思いの人は、地域に居場所をつくろうと仲間を募り活動を始めます。大学生が市民活動団体のホームページ作成や、SNSによる情報発信を手伝うこともあります。それぞれ思いや立場に違いはあっても「楽しい！」は共通のキーワード。この楽しいが、つながりを広げ、地域に波及していきます。今号では、市内大学生の活動と人と人とのつながりをつくり出していく、そんな活動についてご紹介します。（2.3面記事）

まちづくり講座のお知らせ

江戸前ハゼが語る海辺の環境 ～私たちの暮らしとSDGs～



マハゼの調査活動から見えてくる私たちの大事な海辺のこと ぜひお話をお聞かせください

日時：9月21日（土）14時～16時

場所：まちづくり活動プラザ3F 第1多目的室

講師：特定非営利活動法人海辺つくり研究会
理事長 古川 恵太 さん

定員：50名

参加費：無料

申込：市民活動センターまで
直接、FAX、Eメールにて

※先着順 定員になり次第締め切り



ハゼ博士こと古川恵太さんは、江戸前ハゼ復活プロジェクトにて「マハゼの棲み処調査」を行っています。この調査は夏休みボランティアのプログラムでも馴染みがあります。

10年以上続けているこの調査から海辺の環境を理解することは、水辺のまちに暮らす私たちにとって大事なことです。暮らしとのつながりや生活の有り様が見えてきます。



5月24日（金）、初夏を思わせる陽気の中、「うらやすハニープロジェクト」の現場にお邪魔し、運営する明海大学の学生たちから、活動内容やその魅力について伺いました。



学生主体のハニープロジェクト

コンセプトは「うらやす・自然・ひと」

🐝「うらやすハニープロジェクト」 とは？

うらやすハニープロジェクト（以下、うらハニ）とは、明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部の学生による養蜂プロジェクトです。浦安市には第一次産業がなかったことに着目し、養蜂活動を通じて、地域の自然の恵みを分かち合おうと考えたことがきっかけで2022年3月に始まりました。

同大学の学生が主体となって人と自然をつなぐ活動としては、山梨県のワイナリーと提携したワインプロジェクトがありましたが、参加する学生に比してコロナ禍で個々の活動が減ってしまい、新たなプロジェクトの発足が求められていました。そのような中、浦安観光コンベンション協会からヒントをいただいた都市型養蜂を行うことになったのです。

うらハニの大きな特徴としては、浦安の花の蜜を集めた蜂が浦安で育ち、浦安ではちみつが食べられるという「地産地消」につながる活動であること。明海大学の屋上から飛び立つミツバチは巣から3キロ圏内の花々から蜜を集めます。さまざまな花の蜜を集めるので、

百花蜜と呼ばれます。採蜜する月ごとに色や味の濃さが異なるはちみつが味わえるのも、いろいろな花の咲く浦安ならではの魅力です。

🐝うらハニの活動内容

銀座ミツバチプロジェクトの方に養蜂スキルのサポートを得ながら、蜂の仕入れ・養蜂から採蜜・瓶詰め・販売する段階まで、すべて学生メンバー10名が主体となって活動しています。

週に一度、蜂の健康状態を観察し、4月から8月にかけては、隔週程度で採蜜をしています。採蜜できるのは、蜂の羽ばたきによって水分量が減り、糖度78以上になったはちみつのみ。厳選された巣の表面を覆っている膜を優しく削ぎ落としたものを、遠心分離機に表裏30回ずつかけると、採れたてほやほやはちみつがたっぷりと流れてきました。加熱処理などの加工を一切していないはちみつは香りが豊かです。クセのない優しい味わいにもすっかり虜になってしまいました。

瓶詰めしたはちみつは市民まつりやマルシェなどのイベントで販売しているほか、採蜜時期の異なる

4種のはちみつを詰め合わせにした「利き蜜セット」はふるさと納税の返礼品としても利用されています。また、近隣のホテルのメニューにも採用されています。

🐝うらハニのやり甲斐は？

販売活動を続ける中で、「リピーターが増えていることが嬉しい」と話す学生代表の宮崎さんと広報担当の石井さん。中には、元々はちみつが苦手だった方も含まれていたそうです。

また、宮崎さんは、養蜂に加え、外部の方々との対応、請求書の作成など、「通常の学校生活では得られない経験」を積めることを魅力に感じ、自身の成長を実感しているといいます。

🐝今後 取り組んでみたいこと

宮崎さんは「年間100キロを目標としている採蜜量をさらに増やし、学食と提携して新たな商品開発を行いたい」、さらに養蜂やはちみつの魅力を発信することで参画メンバーを増やしていきたいと、意気込みを語ってくださいました。



丁寧に糖度を測定中



取材の翌日、早速マルシェに伺うと、お客様1人ひとりに笑顔で丁寧に接客するメンバーの姿がありました。

浦安の自然や、手作りの温かさを身近に感じられるうらやすハニー。皆さんもぜひ一度試してみてください。

（市民ライター 武田 めぐ）

人と人、思いと思いをつなげて化学反応を起こしたい！

浦安市100人カイギを開催



「100人カイギ」は、街に関わる100人を起点に人と人とをゆるやかに繋ぎ、都市のあり方や価値の再発見を目的とするコミュニティです。

毎回5人程度のゲストをお呼びし、100人が思いを語った時点で解散するというのが唯一のルール。

今回、お話を伺ったのは、浦安市100人カイギを立ち上げた秋葉美有紀さん。大変興味深いお話をたくさん伺うことができました。

地域活性化に貢献したくて活動を始めたことでさらに浦安が好きに

秋葉さんは就職を機に浦安に住みはじめました。会社員として民間企業にて働きながら、NPO法人ブランディングポートの理事として学生に対するキャリア支援を行い、さらに、自分が住んでいる浦安にも地域貢献がしたいと思っていたところ、“100人カイギ”のを知り、2023年に浦安市100人カイギを立ち上げました。

「Fun! & Fan!」をコンセプトに、浦安で活動している多様な100人の思いを共有する機会をデザイン。9名の運営メンバーで、これまで8回のカイギを開催し、累計参加者数は171人を数えました。カイギの会場にはキッズスペースを用意したり、夜だけではなく昼間も開催。誰もが参加しやすいように、少しずつアップデートし続けています。

秋葉さんご自身も「100人カイギの活動を通して、これまで知らなかった浦安の魅力的な人との出会いが増えて世界が広がり、浦安のことがより好きになった」とのこと。「浦安に住んでいても東京に出かけてしまうことが多い中、市内外の人に魅力を知ってもらい、浦安をもっと好きになってほしい。ワクワクと活動する人を増やしたい」と、思いを語ってくださいました。



毎月第2土曜日開催

←詳細はこちらをご覧ください。

登壇者の情報や申し込みはこちらからどうぞ！

@URAYASU100NIN

人と人が繋がることで新たな志やビジネスが生まれる場

5月11日、浦安まちづくり活動プラザにて浦安市100人カイギが開催されました。

会には毎回3～5人のゲストとその話を聞きにきた参加者と合わせて20～30人が集まります。この日のゲストは4人。介護、アート、多世代交流、健康など様々な分野で活躍されている皆さんです。

会場はカイギ開始前から名刺交換や雑談で盛り上がり、賑やかな雰囲気。カイギが始まり、ゲストひとりひとりのプレゼンテーションが終わった後の懇談タイムでは、全員が椅子から立ち上がっていて、「一緒にやりましょう」「コラボしましょう」という声があちらこちらから聞こえてきました。

これまでのカイギ7回すべてに参加しているという方や、ゲストで登壇後に参加者として来られている方など、リピーターも多いようです。

参加者からは「浦安に住んでいるのにまだまだ知らない人がある。どんな活動をしている人があるのか知りたくて参加した」「やりたいことを持っている人が集まる場なので、情熱をもらえて自分のモチベーションも上がる」「コラボ

レーションが生まれる場に立ちえるので、「ワクワクする」という声がありました。

浦安を拠点としたコラボレーションに期待

100人達成に向けてあと64人。登壇いただくゲストの方は募集するのではなく、運営メンバーが「紹介したい」と思う人を探し、一人一人にお願いをしています。そのため、ゲストの方には登壇いただく意義を事前に伝える必要があります。また、ゲストの方の魅力をより引き出せるように準備やカイギ当日の運営をすることが課題。

ゲストには、今後も引き続き多様な世代の色々な人を集めたいとのこと。普段は出会うことのない人とのつながりが、新しい何かを生むきっかけになると考えているからです。

実際、浦安市100人カイギで生まれたつながりによって、新たな活動を始めた人がいるなど、参加者の行動に変化をもたらしています。「ここから生まれた交流が浦安に根差した具体的な活動やビジネスの形に発展してくれたら嬉しいです」とのこと、今後の発展が楽しみです。

本業のお仕事をしながら、若者のキャリア支援、さらに浦安市100人カイギも立ち上げるというパワフルな秋葉さん。触媒として人と人をつなぎ、浦安で化学反応を起こすことで、地域に点在する情熱をより大きな動きへと活性化させています。3足のわらじを履いて行動し続ける姿は、まさに次世代のロールモデルですね！

(市民ライター 西橋友理)



まちづくりフェスタwith参加団体募集！ 今回は秋に開催！

市民のみなさんと一緒に！
市民活動団体と一緒に！
地域において、より多くの出会いが生まれ、交流が盛んになるようにぎやかにwithを開催します。ぜひご参加ください。

開催日時：2024年11月10日（日）10時～16時

開催場所：まちづくり活動プラザ

対象：市民活動センター登録団体
まちづくり活動プラザ事業者
(事業者の会員含む)

<募集部門>

- ①展示 募集数 15団体程度
※開催中（10～16時）はスタッフが常駐してください。
 - ②ワークショップ 募集数 15団体程度
※開催時間は申込団体の希望を聞きながら調整しますが希望に添えない場合もございます。
 - ③販売 募集数 10団体程度
- 複数部門での参加も可
○募集数はおおよその数です。参加内容によって数は増減します。
○出展場所・ブースの位置は主催者側で決めさせていただきます。

募集期間：8月1日（木）～8月30日（金）

(先着順、定数になり次第終了)

所定の申込用紙に記入のうえ、直接、メール、FAXで市民活動センターまで
※申込用紙は8月1日から市民活動センターにて配付（ホームページからのダウンロードも可）

■参加にあたっては、必ず説明会への出席をお願いします。

日時：9月21日（土）10時～11時30分
場所：まちづくり活動プラザ3F 第1多目的室

※詳細は8月1日にセンターHPに掲載いたします。そちらもご参照ください。

市民活動補助金・まちづくり活動補助金 令和7年度実施事業を募集します

<募集期間>

令和6年8月1日（木）～8月30日（金）

市民活動補助金

地域をよりよくするための主体的な活動を促進することを目的としており、団体が行う事業に要する経費の一部を補助する制度です。団体の自立や活動を発展させるために、補助金を活用してみませんか。

<市民活動補助金の種類>

- 自立促進事業（はじめの一步）
 - ・団体の自立促進のための事業
 - ・補助金額：1事業につき10万円以内（補助対象経費総額×100%以内）
 - ・交付回数：1団体につき1回まで
- 活性化事業（ステップアップ）
 - ・活動期間が1年以上の団体の活動を発展させるための事業
 - ・補助金額：1事業につき50万円以内（補助対象経費総額×80%以内）
 - ・交付回数：1団体につき3回まで



まちづくり活動補助金

市とまちづくり活動団体が連携及び協力し、地域の課題、行政の課題を解決するために、まちづくり活動団体等から事業を募集し、市とまちづくり活動団体が事業を実施する制度です。

地域課題解決に向けて、補助金を活用してみませんか。

- ・補助金額：1事業につき300万円以内
- ・交付回数：1団体につき引き続き3年度（3回）まで

問合せ先：市民参加推進課
047-712-6059（直通）

セッター日誌より

6月より申し込み受付開始の若者のための夏休みボランティア、通称夏ボラ。学校帰りの中高生、代わりに申し込みに来たというお母さん。たくさんの方々がセンターにいらしゃいます。一方、受入団体、特に屋外で活動する団体さんが気を揉んでいるのは、この夏の暑さ。昨年よりも暑いとの予報に、今から予備のプログラムを用意するなど、対策を講じます。熱中症はもとより事故やケガのない、安心安全なプログラムに参加して、有意義な体験をしてもらいたいものです。



問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行：浦安市市民活動センター
2024年7月10日

〒279-8501千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎10階)

TEL: 047-305-1721 FAX: 047-305-1722

E-mail: shiminkc@jcom.home.ne.jp

URL <http://u-shimin.genki365.net>

